



第16回

塩狩太鼓保存会 会長 林 博明 (はやし ひろあき) さん

郷土芸能を継承し、ふるさとわっさむを感じてほしい

塩狩太鼓のはじまり

和寒町字中和に生まれ、中和小学校、和寒中学校を卒業後、旭川南高等学校に進学。その後、夢を実現するため北海道自動車短期大学経営科(札幌市)において、自動車の整備や経営に関することを学んだ。卒業後はトヨタオート旭川での営業や西町ボデー(有) (名寄

市)に勤務し、自動車整備の技術を活かしてきた。そして、昭和49年に和寒町に帰り、現在の勤め先でもある藤原ボデー工業に勤務する。

その当時、町内で活発に活動を行っていた各青年団体の集まりである和青連が青年祭を企画し、太鼓を披露することとなった。それ

が塩狩太鼓のはじまりとなる。

恵の目の恵比須が原点

現在の会員でもある和一夫さんと江口昭彦さんは、当時からメンバーであり、林さんとともに太鼓を披露することとなる。江口さんの兄が横浜で太鼓を叩いていたため、録音したテープを送ってもらった。それを教育委員会に勤めていた安藤實さんが譜面におこし、現在も塩狩太鼓保存会での伝統的な太鼓になっている。「恵の目の恵比須」がわっさむ町にひびきわたることになる。

塩狩太鼓保存会の発足

昭和52年、会員約8人と和寒太鼓愛好会が発足し、翌年53年に塩狩太鼓保存会と名称を改めた。

以降、各県の様々な伝統的太鼓をアレンジしながら、現在は約10数曲を演奏できるようにになった。

郷土芸能として

和寒神社祭や地域での行事で演奏する機会も多くなり、わっさむ町の郷土芸能として認知されるようになった。林さんは「昔は太鼓もなく各地域の神社から太鼓を集めて練習した」と当時の苦勞を振り返りながら、郷土芸能を継承するため少年団の育成にも力を注いでいる。昭和56年頃に結成された塩狩太鼓少年団では、現在までに約200人以上の子どもたちを指導してきた。林さんは子どもたちに「わっさむの郷土芸能として継承して欲しい。また、わっさむを離れても地域の音色を聴くことでふるさとわっさむを感じてほしい」という。

塩狩太鼓保存会は結成から今年で約32年。青年祭からはじまった太鼓は、今ではわっさむ町の郷土芸能にまで発展し、今でもその音色をひびかせ続けている。



林 博明さん[塩狩太鼓保存会会長] 61歳
和寒町字東町 0165-32-2556
出身：字中和
経歴：1961年 中和小学校卒業 1964年 和寒中学校卒業
1967年 旭川南高等学校卒業 1969年 北海道自動車短期大学(札幌市)卒業 同年 トヨタオート旭川
1970年 西町ボデー(有)(名寄市) 1974年 藤原ボデー工業
趣味：レーザークラフト・釣り